

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>神奈川中央交通西株式会社</p>	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント119箇所)及び一部町外(乗降ポイント1箇所)を対象としたデマンド型交通システム(区域運行型)</p>	<p>公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高める移動手段として、平成25年1月10日から運行している中井町オンデマンドバスについて、大規模な見直しを執行しない代わりに、より必要とする利用者のための運行体制の見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を図るため、地域の利用状況を深掘りして分析し、需要予測から持続可能な地域公共交通システムを探る期間とする計画となっている。</p>	<p>A</p> <p>令和2年度より、利用者ニーズへの対応として町外の拠点病院への実証運行を開始したが、予約の取りづらさへの影響は見られず、安定して利用できている状況にある。引き続き、利用者の属性や利用目的、利用状況等を分析し、実態に合わせた運行体制の構築の検討を行っており、計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>令和3年度(令和3年9月末現在) 利用者数:32.4人/日</p> <p>町内完結型運行に切り替え以降、利用者ニーズへの対応による一部町外の拠点病院への実証運行を開始し事業を展開している。コロナ禍という状況もあり当初目標としている42人/日以上は下回ったものの、交通空白地域の在住者、高齢者及び児童生徒など本来救うべき移動手段の無い人等が利用しやすい環境が保たれているものと考えられる。登録者数も微増ではあるものの増えており、路線バスを補完する移動手段としては一定程度の利用が維持されている。</p>	<p>現行の運行体制で、交通空白地域の在住者や交通弱者等が利用しやすい環境が一定程度維持されている。しかし、昨今、高齢化の進展や運転者不足の深刻化等により、公共交通の維持が容易でなくなってくることも予想される。当町においても高齢化の進展が著しく、高齢者等が安全かつ安心して利用できる生活交通の早急な環境整備が求められており、費用対効果を鑑みながらサービス向上に努めていく必要がある。引き続き、路線バスを補完するフィーダー的役割を担っているオンデマンドバスの安定的な運行を図るとともに、障害や年齢などに関係なく、誰もが安心・快適に移動できるしくみを検討し、町の交通網全体を機能的なものにしていくことを目指す。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>(協議会による一次評価の際は記入不要)</p>
--------------------------------	----------------------------

別添1-2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 4年 1月 日

協議会名:

中井町地域公共交通会議

評価対象事業名:

地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿
(事業実施の目的・必要性)

中井町には鉄道駅がなく、最寄り駅までは路線バスが運行されているが、町内の広範囲にわたり公共交通空白地域が点在している。また、丘陵地のため坂道が多く、高齢者や児童など自動車を運転できない人の移動に支障をきたしている。

町唯一の公共交通手段として民間路線バスが担っているが、一部の路線では赤字となっており、日常生活に必要な最低限の交通手段の確保及び住民の移動ニーズに合った交通手段の提供といった公共交通の充実には、将来に向けた中井町全体の公共交通計画が必要である。また、通勤・通学者や高齢者などの利用者や交通空白・不便地区の住民などの地域のきめ細やかなニーズを把握し、既存の公共交通機関と連携して利便性の高い公共交通体系を構築することが必要である。

本町では、公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、平成25年1月から中井町オンデマンドバスの運行をしており、今後も誰もが安心・快適に移動できるしくみを検討しながら、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取り組みを継続していく。